

田田、西打、<sup>我</sup>他の諸兄にも  
此の抄り傳へて、幸甚しく申付  
（下）

拝啓

中村憲吉様 御長子儀に

貴向。歸途は 鹿島に

尾、道に 河東内下りぬ

その上 夜分おそくに御定

一歩世法様は相成り 存

聖日御多忙の御事 宝塚に

御案内下りぬ 万々感謝の

至りに御座ぬ 仰りかゝりて

名古屋士下りぬ 一と 聖

日また京邸に引きかへし

小國民の御世後にて 大徳

寺をままなく拝観させて

いよいよ夕方歸途につきぬ

歸来早速御礼申上げぬ

皆の御心身癒方二三日

起きたり寝てして過し 其

他頼用にて心にもなき御

不礼化りぬ 何卒御海

容下さぬ ぶよとせせむら

ここに 居て御礼申上げぬ

大兄に、其の御節さす御座ぬ

の御事と存じぬ 御妻りも三小如

御大御に御上りぬ 存

御尊母様 御礼申上げぬ 御傳一と

されぬ 御令室様にいとつ不

よろしく 御上りぬ

御上京の御節は是非 御立寄り

あざね 今度よろしく 御礼申

五月十日 甘藤澤古實

大村吳梅様

東京市 浩吉

東京市浩吉  
懐々方原町八五  
若澤古實  
十月三十日  
牛嶋一園先生  
ハカシメ御礼

御禮 日本書生全集刊行のため左記の資料御貸賜下さり  
謝く御禮申上げぬ 二月十日御返書申上りて 御禮申  
上りぬ 御返書申上げぬ 御礼  
御禮 浩吉  
御禮 浩吉  
御禮 浩吉  
御禮 浩吉

今回大阪の颶風候福  
美に驚くの外なきに 何卒  
半定御一同御礼申上げぬ  
之やう陰存から御事 不取  
大御又年々御礼申上げぬ  
切に御大切御事外

拝啓 この春歸途に際し御祝  
詞申上げぬ 御礼申上げぬ  
昨局から日夜御多忙の御事と拝  
察いたします 中村憲吉全集立  
派が出来揃にて 亦なく拝見して  
ります 御苦心の御事と拝察申上げぬ  
ご多忙の御事と拝察申上げぬ  
左の御礼申上げぬ

拝啓 是日は 昨日出立を御通  
知に接しぬら 御祝詞送引失  
礼なりぬ 謹んで御礼申上げぬ  
将来益々御多忙なるに御事と  
存じ 御念事なりぬ 御礼  
二月二十日

拝啓 昨日御多忙御事と  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
お送り致しなく存じます 御  
御礼申上げぬ 御礼申上げぬ  
御礼申上げぬ 御礼申上げぬ  
御礼申上げぬ 御礼申上げぬ  
御礼申上げぬ 御礼申上げぬ

拝啓 昨年御多忙の御事と  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ  
御言ひ申上りぬ 御礼申上げぬ

東京市 浩吉